



こそだて通信

かしのき保育園 2010年度 No.6

==大切な気持ち==

気がつけばもう3月。今年度、最後のおたよりになります。

すかんぼさんは、もうすぐかしのき保育園を巣立っていくのですね。

そう思うと寂しく感慨深いですが、成長した姿をうれしく思います。

毎日保育園で見せてくれる子どもたちの表情は、どのお子さんも生き生きして、眩しいくらいです。泣いても怒っても笑っても、その子らしいエネルギーに満ちた表情を、これからもずっと持ち続けて大きくなってほしい、と願っています。

私は、仕事柄、笑顔を失った思春期のお子さんと多く出会った経験があります。何の気力もわからないお子さん、自分はどうしたいのか、何のために生きているのかと、もがき苦しむお子さん。小さな時はどんな笑顔だったんだろう、と思わずにいられませんでした。

どうすれば笑顔をもち続けて大きくなれるのか、もし笑顔を失うようなことがあったら、どうしたらいいのか。

ひとりとして同じお子さんはいないので、はっきりとした答えはありませんが、以前ヒントになるようなお話を研修で伺ったので、ご紹介したいと思います。

『20歳までに育ててほしい3つの気持ち』

1. 自分は愛されている、という気持ち
2. 自分は信頼されている、という気持ち
3. 自分は価値がある、という気持ち

(小澤俊夫先生：昔ばなし研究所)

どうでしょう。お子さんは『自分は愛されている』『自分は信頼されている』『自分は価値がある』人間だと感じられているのでしょうか。

保育園の時期、小学校の時期、思春期、その時期によって色々な姿で、親の愛を求め、親の自分への信頼を試し、自分の価値を確かめようとするでしょう。どうかその時は、周囲の力も借りながら、精一杯の気持ちでお子さんと向き合っていただけたらと思っています。

そうすれば、大体大丈夫です。

(担当 藤井あづさ)